



若 鮎



HPで活動の様子を
紹介しています。

「自己有用感」= 当校が一番大切にしていることです

校長 岩片 和義

「ぼくがここに」 まど みちお

ぼくが ここに いるとき
ほかの どんなものも ぼくに かさなって
ここに いることは できない

もしも ゾウが ここに いるならば
そのゾウだけ
マメが いるならば その一つぶの マメだけ
しか ここに いることは できない

ああ このちきゅうの うえでは
こんなに だいに まもられているのだ
どんなものが どんなどころに いるときにも

その「いること」こそが
なににも まして
すばらしいこと として



春のPTA総会で学校経営方針を基に説明したとおり、当校では「自己有用感を育む」ことをとても大切にしています。これに関わって、しばらく前に、ある中学校で参観した授業を紹介します。

担任は、左の詩をゆっくりと朗読し、「まど みちおさんは、詩人として有名な方で、『ぞうさん』や『一年生になったら』、『ふしぎなポケット』などの童謡を書かれた方です。この詩を読んだ感想や印象に残ったことを話し合ってください。」と指示しました。

班での話し合いでは、この詩から感じたことを思い思いに出し合っています。しばらくして、「まどさんがこの詩を通して伝えたかったことは何だと思えますか。」と担任が発問しました。子どもたちは、この詩に込められた思いを想像しながら、更に意見を出し合っています。その、一生懸命に自分の思いを伝え

合い、聴き合っている姿がすがすがしく、とてもいい時間でした。授業の最後に発表がありました。

「自分が『ここにいること』自体がすばらしい、なんてなかなか思えないけど、自分が誰にも代われない存在だということがわかりました。」「地球の上で大事に守られているということが印象に残りました。」「人間だけじゃなくて、ゾウやマメのことまで考えたまどさんはすごい。」…子どもたちの発表が続きます。

その時、窓側の一番前で黙って座っていた生徒に、担任が発言を促しました。

「ぼくは…あまり…自分のことが好きではありません。」一瞬、教室が静まりかえりました。「お兄ちゃんたちがって運動も苦手だし、勉強も得意ではないし…。あんまり自分に自信がありませんでした。……けど、この詩を読んで、みんなの話を聞いてたら、少しだけ自信ができました。」

教室は静かなままでした。しかし、そこには「わたしも一緒に気持ち」という、声には出さない共感という大きな返事が確かに返されているように感じました。

『ここにいることこそが、なににもましてすばらしい』

私たち大人は、ついつい他の子と比較して、勉強もスポーツもと多くを求めてしまいがちですが、何かができるから大切なのではない、今そこにいるありのままのあなたが大切なんだよ、そんなメッセージを子どもたちに伝えられているだろうかと反省をしつつ、教室を後にしました。

「自己有用感」とは、自分と他者との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価のことです。他者から「認められる」ことが自信をもつことにつながり、子どもの「育ち」を支援します。上の事例では、生徒は詩によって、ありのままの自分を認められたという思いをもつことができ、自信につながりました。

子どもが努力し、「こだわった」「見てほしかった」点=認めてもらいたがっている点を見付け、それを認めることを、繰り返し繰り返し学校や家庭・地域で大事にしていきましょう。





令和5年度 小中合同文化祭

10月28日（土）に、谷浜小学校体育館において、谷浜小学校・潮陵中学校合同文化祭が行われました。今年度は、数年ぶりに人数制限を行わずに開催することができたため、たくさんの保護者、地域の皆様にご来場いただき、児童・生徒のがんばりをご覧いただけました。

1・2年生は、生活科の時間に体験を通して学んだことを劇にしました。歌やピアノ演奏もあり、カエルさんや虫さんも登場して、楽しくにぎやかに発表しました。

3・4年生は、総合的な学習の時間に、地域の先生方に教わったことや体験したことを劇にしました。桑取・谷浜の豊かな自然を大切に思い、守っていきたいという気持ちを表しました。

5・6年生は、トランペット鼓隊の発表、「こんにちはトランペット」「校歌」の2曲を演奏しました。ユニフォームを着て、颯爽と演奏する凛々しい姿が印象的でした。

1・2年生 「えがおでチャレンジ ～すてきな出会い み～つけた！～」



3・4年生 「伝えよう 谷浜の自然」



5・6年生 トランペット鼓隊「こんにちはトランペット」「谷浜小学校 校歌」



あったかメッセージ交換を行いました



合同文化祭後の11月6日（月）に、潮陵中学校の生徒のみなさんが、小学校に「あったかメッセージ」を届けてくれました。各教室に、中学校のペア学年の先輩方が入り、小学生の発表に対するの温かい感想を述べ、メッセージカードを手渡しました。小学生の子どもたちも、準備していたカードを先輩方に手渡しました。

このようにして、互いの発表を見合った児童と生徒とがメッセージ交換を行い、心の交流を図ります。いただいた素敵なメッセージは、廊下や教室に掲示してあります。



10月17日（火）第2回潮陵中学校区学校運営協議会が行われました。



今回は、谷浜小、潮陵中の両校から、全国学力調査等学力テスト及び前期学校評価の結果報告を行いました。また、今年度の教育活動の様子を、スライドをもとにご説明しました。

委員の皆様からは、以下のような貴重なご意見をいただきました。

- 人権教育、同和教育については、保護者や家族の認識が子どもたちに大きく影響するものなので、地域・保護者も一緒になって学び、考えていかなければならない。
- 複式学級で発達段階の違う子どもたちに同時に学習指導を行う難しさはある。だが、異年齢が集団をつくることで、年上の子に学ぶよさ、子ども同士が教え合うよさもあるので、これを大切にしてほしい。

- 例えば、誰もが発言の機会があることや、活躍の機会が多く自主性、自立性が育つことなど、少人数であるがゆえのメリットも大きい。小規模校のよさが出ていると感じる。
- この地域の強み、この学校の特徴、ここでなければ学べないことを大切にしたい。谷浜・桑取地区の豊かな歴史文化、自然に学ぶ教育活動を今後も推進してほしい。そのために、地域も多方面から協力していきたい。

学校運営協議会委員の皆様、地域の皆様の学校にかける熱い思いを感じる時間となりました。このように力強いバックアップを大変ありがたく思いました。

11月2日（木） 子ども里神楽の練習が始まりました！

今年も、子ども里神楽の練習が、本格的にスタートしました。西横山の白山神社の宮司様を中心とした5名の講師の皆様、5・6年生が里神楽の舞を教わります。

まず、10月半ばに、白山神社宮司様より、桑取・谷浜地域の歴史や文化と里神楽の関係について教わりました。里神楽や桑取谷の素晴らしさ、他地域や海外との交流などのお話を、子どもたちはメモを取りながら熱心に聞いていました。

そして2日（木）は、いよいよ練習初日！今年、子どもたちが演じるのは、以下の演目です。

庭清、獅子、三番叟、幣帛、太玉、鉾、鏡、鈿女、戸隠天女、海幸
6年生は昨年度に引き続き2度目の、5年生は初めての挑戦です。演目ごとに担当講師の先生から、ステップの踏み方や道具の持ち方、細かな手足の動かし方などを、一つ一つ丁寧に教わります。DVDで実際の舞を観ながら学習する姿、6年生が5年生にアドバイスする姿も見られます。

12月の発表会に向けて、子どもたちの挑戦は続きます。



